



公共圏における歴史 (History in the Public Sphere)
シンポジウム

公共圏における戦争・平和博物館の役割Ⅱ ー第二次世界大戦終結80周年によせて

2025年
12月14日(日)
13:10~17:00
(開場 12:40)

東京外国語大学
研究講義棟
101教室

Presenters ※登壇順、敬称略

Rafał WNUK
第二次世界大戦博物館 館長

大串 潤児
国立歴史民俗博物館 教授

Constantin IORDACHI
中央ヨーロッパ大学 教授

Éva BICSKEI
ハンガリー国立博物館 キュレーター
セーチェニ・イシュトヴァーン大学 准教授

戦後80年を経ても第二次世界大戦博物館に
果たすべき役割はあるのか

現代日本の歴史教育と博物館
国立歴史民俗博物館「戦争」展示をめぐる

共産主義を「想起する」のか「非難する」のか：
中東欧における共産主義記念博物館

記憶政治における亀裂としての第二次世界大戦：
現代ハンガリーにおける偉大なる男たちの崇拜

司会・趣旨説明 篠原琢 東京外国語大学

Commentator 兼清順子 立命館大学

参加登録フォーム
こちら！



第二次世界大戦後80年が経ち、戦争を自ら経験した人々はもちろん、その次の世代も公的生活から引退する時期を迎えつつあります。他方、これまで世界秩序の基礎となっていた第二次世界大戦の経験は現在、大きく揺るがされつつあります。

新しい時代に向かって、社会的・文化的記憶の基礎となる歴史博物館は戦争の記憶、さらに戦後の時代をどのように伝えることができるのでしょうか。さらに記憶研究やパブリックヒストリー論を受けて、博物館の使命はどのように再定義されるのでしょうか。2025年3月に開催したシンポジウムの成果と課題を踏まえ、議論をさらに深めます。